

EV 電池のサーキュラーエコノミー市場の創出

～8兆円市場に向けてEV電池の国内循環を～

— 講師 —

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター

シニアコンサルタント 梶山 嵩 氏

日時 2024年11月12日(火) 午後1時～3時
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2週間、何度でもご視聴可)
会場 紀尾井フォーラム 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート1F

[重点講義内容]

EVに搭載されている電池(EV電池)はリユース・リサイクルにおける価値が高く、サーキュラーエコノミーの実現が期待されています。しかし、EV電池の循環には多くの課題があり、その結果として中古EVの大半が海外に流出しているため、国内ではサーキュラーエコノミー市場の形成が進んでおりません。そこで、国内でEV電池を循環させることの経済的なインパクトを把握するため、EV電池サーキュラーエコノミー市場の潜在的な規模を予測しました。

今回はその内容について解説するとともに、ユーザー起点で市場を形成するための方法論をご提案します。EV電池の二次利用にご関心がある事業者様など、幅広い業種の方々のご参加を期待します。

1. サーキュラーエコノミーとEV電池を取り巻く政策・技術動向
 - (1) サーキュラーエコノミーに関する政策・技術動向
 - (2) EV電池に関する政策・技術動向
2. EV電池の循環における課題とサーキュラーエコノミー市場形成のシナリオ
 - (1) EV電池の循環における課題
 - (2) EV電池のサーキュラーエコノミー市場形成のシナリオ
3. EV電池のサーキュラーエコノミー市場規模の予測
 - (1) 市場規模の予測方法の概説
 - (2) 2050年までの市場規模推移の予測結果
4. EV電池のサーキュラーエコノミー実現に向けた「ユーザー起点」の課題解決
 - (1) 日本総研が提唱する「スマートユース」のコンセプト
 - (2) 「スマートユース協議会」の活動を通じたユーザー起点の取り組み
5. 質疑応答／名刺交換

PROFILE 梶山 嵩(もみやま たかし)氏

京都大学工学部地球工学科卒業、京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻修士課程修了、愛媛大学大学院生物環境保全学専攻博士課程修了。2013年に新日鐵住金株式会社(現・日本製鉄株式会社)に入社、主に建設分野における鋼材の利用技術に関する研究開発、知財開発等に従事。2023年に株式会社日本総合研究所に入社。「BACE(Battery Circular Ecosystem)コンソーシアム」の運営や、EV電池の資源循環に関する事業可能性調査等、EV電池の循環に関する様々な活動に取り組んでいる。

